



日本大学
国際関係学部

校友会々報

第 34 号

静岡県三島市文教町 2-31-145
日本大学国際関係学部
校友会

平成十五年度 常任幹事会・幹事会開催

◎常任幹事会

平成十五年七月二十五日(金)
十七時三十分から国際関係学部
八号館二階において開催された。

柴田正会長挨拶のあと、事務局から、幹事会の議事等について説明があり、各項目ごと詳細にわたり審議された。

◎幹事会

平成十五年七月二十五日(金)
十八時三十分から、常任幹事会に引き続いて開催された。関野幹雄常任幹事の司会で進行され、柴田正会長挨拶の後、議長団・書記が選出された。

議長には久保田博明常任幹事、書記には山瀬匠幹事がそれぞれ選出され、次の議事が審議された。
一、平成十四年度事業報告
一、平成十四年度決算報告
一、監査報告
一、平成十五年度事業計画(案)
一、平成十五年度予算案
一、総会の件

一、役員の件
一、各科活動状況報告
一、その他

田中由雄幹事長から、平成十四年度事業報告がなされ、続いて平成十四年度決算報告が、野田正人常任幹事会計担当から報告、また、監査報告を会計監査欠席のため田中由雄幹事長より報告があり、それぞれ承認された。
続いて平成十五年度事業計画

(案)及び平成十五年度予算(案)について審議され、それぞれ承認された。
総会の件については、例年国際関係学部記念館で開催しているが、参加者も増え収容出来なくなつたため、本年度は場所を三島グランドホテルに移し十一月三日(月)十六時から開催することで承認された。
役員の件については、平成十六年三月三十一日付で現役員が任期満了となるが、校友会本部との関係もあり、再任ということで承認され、任期は平成十六年四月一日から二ヶ年とする。また校友の輪を広げるため、昭和五十四年度から各学科で三島同窓会長賞を授与された者について事務局から幹事として推薦したい旨の提案があり、承認された。その内訳として国際関係学部六十六名、短期大学部文学科十八名、商経学科二十二名、食物栄養学科十八名、工科六名で合計一三〇名となる。その他各期及び学科より幹事の推薦があれば事務局に連絡をいただきたい旨の依頼があった。
その他のとして柴田会長から校友会本部主催の年間の会議等の報告及び「絆」「日大 02」の掲載内容の説明があった。また校友会本部への正会員加入促進のため同期への働きかけをお願いしたい。

『伊豆の踊子』に魅せられた校友



国際関係学部長

佐藤 三武朗

伊豆に魅せられた校友に、私は時々お会いする。最初、伊豆の贅沢を社交辞令で言っているのではないかと思い、半信半疑で聞いているが、校友の話は次第に熱を帯び、情熱的となり、私が輝いてゆく。

人は青春時代への回想を深める。歳をとるにつれ、在りし日の思い出に、心の安らぎを求める。

ところが、校友の話は違うのだ。三島で過ごした青春時代が、新玉のような輝きを帯び、日を経るにつれ、ますます心をかき立てると言うのだ。

人の校友の話は、次のようにある。

せつかく歴史と文化と自然がいっぱいある三島で学生時代を過ごすのだから、これを幸いに、川端康成の『伊豆の踊子』の舞台に親しもうと考え、川端康成が歩いた、いわゆる踊子歩道を

幾度も訪れたのだそうだ。
川端康成は十九歳の時、伊豆を一人旅する。早くから両親を亡くし、また祖父母も亡くし、天涯孤独の身となる。川端康成には、強い孤独壁があつた。心を癒（いや）すために、伊豆への一人旅に出たのである。

心の慰めは美しい天城の自然である。何にも代えがたい心の慰めは、人との出会いである。

修禅寺で、そして湯ヶ島で、川端康成は踊子に出会う。心をときめかして、天城峠の険しい道を急ぐ。踊子に会いたい一心からである。

踊子は若葉のように誠実で、花のように無垢である。踊子の一家は、川端康成を旅の道連れとして温かく迎え入れてくれる。孤独壁の川端康成は、真底、心を癒されてゆく。

家族のいたわり、ぬくもりを川端康成は有り難く思う。お互に助け合い、旅芸人という社

人生には別離がある。下田港で、川端康成は踊子に見送られ、新たな旅路につく。悲しみはつきまと。しかし、新たな人生への励みとなる。心の支えとなる。

他の校友の皆さんにおかれまして、私が羨むような、伊豆への深い思い入れがあるのではないでしょうか。

天涯孤独の身となる。川端康成には、強い孤独壁があつた。心を癒（いや）すために、伊豆への一人旅に出たのである。

心の慰めは美しい天城の自然である。何にも代えがたい心の慰めは、人との出会いである。

修禅寺で、そして湯ヶ島で、川端康成は踊子に出会う。心をときめかして、天城峠の険しい道を急ぐ。踊子に会いたい一心からである。

踊子は若葉のように誠実で、花のように無垢である。踊子の一家は、川端康成を旅の道連れとして温かく迎え入れてくれる。孤独壁の川端康成は、真底、心を癒されてゆく。

家族のいたわり、ぬくもりを川端康成は有り難く思う。お互に助け合い、旅芸人という社

校友会との連携を密に



国際関係学部事務局長

鈴木 弘文

国際関係学部校友会の皆様方

には、ご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。本学部校

友会も発足後2年目をむかえら

れ、今後とも益々のご発展を心

より祈念いたしております。

さて、私は、5月の連休明けから事務局長として就任いたしましたが、本学部への異動前は、本部校友会事務局に勤務してお

りました関係で、校友の方々の

ご活躍またご支援などを目の当

たりに拝見し、心から感謝しておりました。

本学部の場合、組織が大変複雑でありましたが、柴田校友会会長の下で会員の方々のご尽力により、同窓会から校友会とし

て昨年新たにスタートされました。私も赴任して日も浅く、現

在、本学部の現況等につきまして勉強中でありますので、校友

会の皆様方との連携を密にし、情報やご意見をいただきながら、

本学部発展のために一緒に頑張つ

日本大学校友会では、平成15年度新入生から、年会費を納入していただき準会員になる制度を導入しました。準会員の年会費はすべて学生に還元されるもので、例えば、経済的に困難な状況にある学生を支援する奨学金制度や怪我や病気などで通院

した際の医療費を一部負担する診療費助成制度などあります。

今後はこの制度の基で、校友会と学部との関係が益々深まるものと思います。この新しい事業を成就させるため、大学といたしましても校友会の皆様のご尽力にこたえるべく鋭意努力をいたしますので、尚一層のご支援を賜りますようお願ひいたします。

して、ご挨拶とさせていただきましても校友会の皆様のご尽力にこたえるべく鋭意努力をいたしますので、尚一層のご支援を賜りますようお願ひいたします。



「信頼」と「顕在」



国際関係学部校友会会长
柴田 正



国際関係学部校友会副会長
渡辺洋子

時の流れ

会員の皆様方には、お元気で御活躍のことと存じます。日頃の校友会活動への御尽力心より御礼申し上げます。

本部校友会に加盟し、二年目を迎えました。「自助自立」を目指し、各部会を通して校友会のPR活動を行つております。

何かと暗いニュースが多い中、

今年は新春より箱根駅伝三位と

いう幸先の良いスタートとなり

ました。これを受け、本部校友会では「平成十五年度箱根駅伝振興特別委員会」を設置し、来

年の第八十回大会の優勝を目指して応援を行うこととなりました。

この活動の中、先日の出雲駅伝での本学の逆転優勝は大いに勇気が出るものであり、皆様のご支援をお願いするところであります。

どの様な仕事であれ人と人と

の「信頼」が不可欠です。TV

シリーズの「ER」の中で、各

スタッフや外部のメンバーとの

やりとりを観ているとお互いを思い遣る気持に加え、事有る時には上下を問わず強い「信頼」で結ばれていないと問題は解決しないということが良く解ります。これは日頃から言葉にしてお互いの意志確認をすることの大切さを教えられます。意心伝心は勿論大切は勿論大切ですが、考えている事、思つてることを言葉に出し、「潜在」から「顕在」に移すことによりお互いに理解が深まり「信頼」が増すことになります。

スピードを要求される昨今ではありますが時間をかけて築いていくものも沢山有ります。焦ることなく一歩々進めて行きたいものです。

卒業後、何かと多忙の毎日と

は思いますが、校友会活動をしていくものも沢山有ります。焦ることなく一歩々進めて行きたいものです。

校友会の皆様御健勝にてお過しの事と存じます。

校友会副会長と桜栄会会長として微力ではありますがあが努力しております。母校を愛する気持は常に変らず持ち続けています。校友会の先輩役員の皆様の会に対する強い熱意には頭の下がる思いが致し、いつも感動の念で一杯です。

会長の柴田正様は三島同窓会から国際関係学部校友会に変わった時最大なる力を添いで下さいました。又国際関係学部同窓会長の宮下公雄様も柴田会長を助け活躍しております。校友会は多くの卒業生の心の寄り所であります。私も生活文化学科の非常勤講師として早三十年になろうとしております。調理学で日本料理、西洋料理や食文化特論で食の歴史や文化、フードコートでイネートで日本文化、茶道や華道、日本料理とフランスの食文化の比較や郷土料理等、あら

ゆる日本文化を教える科目ですが年々国際関係学部の学生が興味を持つて受講してくれます。前期の授業のアンケート結果によると、多く面白そう、もともと関心があつた等に多くの回答が見られました。これは国際間の交流が多くなることによってより一層日本文化が求められる表われだと感じます。

日本大学で学びしつかりとした日本人としての自格を持って、これから社会に巣立つていつてほしいと思います。

教職員いけばなクラブも出来ました。私の学生の頃大学祭にお花を生け、今富桜祭にお花を生ける時、あの兵舎の部屋の建物と現在の素晴らしい十五号館を比べますと時の流れを感じます。

しかしどの様に時代が変わつても人間としての道は変わるものではありません。国際社会の

中で日本人としてそして日本人大
学卒業生としての誇りを持ち続
けて行きましょう。

今後時が流れと共に国際関係
学部校友会が益々発展していく
ことと皆様の御健康を祈念して
おります。



国際関係学部校友会ホームページページ発信

国際関係学部校友会副会長
国際関係学部同窓会会长



宮下 公雄

立つ情報、皆様の近況報告、校
友の広場を設けました。機密重
視のセキュリティのしっかりとし
たページですので皆様の秩序有
る活発なご発言を楽しみにして
おります。

国際文化学科四年
鹿内 隼人

鹿内 隼人

会員の皆様にはますますご清
栄のことお喜び申し上げます。
日ごろより校友会活動にご尽力
頂きまして誠にありがとうございます。

日本大学校友会も二年目を向
かえ国際関係同窓会も学部内の
交流、学部外の交流も進んでお
ります。

卒業から早二十年、あの頃と
は比べようが無いくらいキャン
パスも大きく発展し、すべてが
満たされた物余りの時代に突入
しました。在学生・卒業生の皆
様も、あらゆる情報が氾濫し情
報過多で様々な悩みを抱えてい
る同窓の方も多いと思います。

私自身も、卒業から二十数年、
そろそろ周りの仲間の消息も氣
になる年になりました。あの時、
一緒に汗をかいた仲間は今どう
しているのだろう、同窓生の消
息が途絶えて心配されている方
も多いと思います。

混沌とした時代に皆様にお役

に立てる、同窓会のホームページ
を立ち上げることを切に希望
しておりますが、様々な学内
外の関係者のご好意で会員の皆
様に、より役に立つ情報源とし
て国際関係学部校友会ホームページ
を立ち上げる事になりました。

このホームページは同窓生か
らも活発な情報発信をしていた
だき、国際関係学部各学科のホー
ムページ、学科同窓会ホームページ
、同窓生（企業）のホームページなどともリンクを張り

て参りましょう。サイト運営を
活発にするために、皆様の活発
なご意見をお待ちしております。

今日、国際化はめまぐるしく
進んでいる。そして、これまで
以上に沢山の人達と出会う機会
が増え続けている。そのような
中、怯むことなく堂々と対応す
るために、何が必要なのであ
ろうか？もちろん、相手の習
慣、考え方を理解する事が大切
である。そして、最も大切な
のが自分への「自信」であると私
は考えている。

／自信／といつても、簡単に
身に着けられるものではないだ
ろう。／自信／とは、これまで
の人生における自分自身の努力
に加え、出会ってきた多くの人
達から学んでいく中で、ゆっくり
り形成していく物であろう。私
が自信を得る、最も大きな機会
を与えてくれたのが、何といつ
ても学生会CSAで過ごした三
年間であろう。この三年間は、



校友会長賞受賞者



今までの人生とは比較にならないほど刺激に溢れていた。富桜祭実行委員会の仲間、ゼミの方々等、沢山の人達に出会い、学ぶ機会があった。その中で、私はある物と出会った。それは、この場で公表するのは控えさせていただが、私が唯一誇れる物であり、私の自信の根底となる物である。そしてそれも、学生会CSA、強いて言えば日本大学国際関係学部に入学しなければ一生出会うことはなかつたであろう。

そして、学生会CSAが与えてくれたものがもう一つある。大切な思い出である。仲間達との沢山の思い出は、学業に追われる毎日に、華を添えてくれた。このよう、多くのかけがえのない物を与えてくれた、学生会CSAおよび先輩、後輩、友人、家族といった私を支えて下さった全ての人達にこの場を借りて、心から感謝したい。ありがとうございました。



二年になつて会計を担当した私は、自分に責任の重い仕事を任せられ、それをこなすために努力することの大切さや重要さ、後輩との付き合いや、教育等、とても大変でしたがやり甲斐のあることばかりでした。

国際ビジネス情報学科四年 齋藤 慎亮



私の小・中・高・大と続いた学生生活の中で最も充実していたのは大学生活でした。特に高校時代、部活動を何もしていない私は、大學生生活は部活動に参加して友人をたくさん作り、充実した学生生活を送ろうと思いました。そして文化会執行部に参加しました。私は文化会執行部で様々なことを経験しました。一年目、敬語の使い方など、ろくに知らない私も接してくれました。そしてみんなの友達に出逢い、いろんな事を学び成長したと思います。そんな大学生の中でも私を大きく成長させてくれたのが、体育会執行部に入った事だと思います。体育会の仕事は、裏方の仕事が多く決して楽な事ばかりではありませんでした。私は将来かけがえのない経験になると思います。こんな素晴らしい大学生生活を送ることが出来たのは、友人、そしていつも応援してくれた両親に心から感謝します。

国際ビジネス情報学科四年 山本 克幸



4月にはまだ、桜の咲かない北海道から、この緑豊かな日本大学三島キャンパスに来て早くも4年間という月日が過ぎようとしています。今思えば、時が経つのはものすごく早い。

大学に入学して、私はたくさんの友達に出逢い、いろんな事間の荒波に揉まれて大変な日々を過ごすかもしれません、この4年間の大学生生活で学んだ事は、私自身を本当に成長させてくれたと思います。

来年からは、社会人として世界を過ごすかもしれません、この4年間の大学生生活で学んだ事は、私自身を本当に成長させてくれたと思います。私は御指導してくださいました、諸先生方、いつも大変な時に励ましてくれた友達、そして私を北海道から送り出してくれた両親、お世話をなつた全ての方々に感謝したいと思います。本当にありがとうございました。

なで、様々な難しい問題を乗り越えた時、それを共に経験した仲間でしか味わう事の出来ない喜びは、私の大学生活の良き思いでの一つになりました。

大学という場所は、もちろん勉学に励む場所ではありますが、それ以外にも、良き友達と出逢い、色々な思い出を作る事はとても大切な事だと思います。机に向い、勉強するだけでなく、共に喜怒哀樂を感じ、4年間という貴重な時間を一緒に過ごすことが出来る友達に出会えた事は、私自身を本当に成長させてくれたと思います。

が富桜祭を成功に導いたのです。

つまり重要なのは成長することです。



国際ビジネス情報学科四年

楠本 幸貴

暖かな実家を離れ、三島で過ごした私の四年間は未熟な自分との戦いの連続でした。特に私が大学生活をかけて取り組んだ富桜祭実行委員会での活動は失敗、挫折の繰り返しでした。大勢の部員たちを率いて一つの事業を成し遂げるということは委員長に多くのスキルを必要とします。統率力、コミュニケーション能力、柔軟な思考、知識、魅力、哲学、これらスキルを身につけようと悩み、挑戦し仲間たちには多くの迷惑をかけました。そう、第五十二回富桜祭を無事に成功へ導くことが出来たのは未熟な私を影で支えてくれた多くの仲間たちの力によるところが大きいのです。

私も含め仲間たちもこの三年間様々な困難を乗り越え大きく成長しました。これは決して富桜祭が成功したから成長したのではなく、皆の努力による成長

で最も大切にしたのが、部員にチャレンジするチャンスを与える事でした。例え困難と思えるアイデアでも意欲のある者には出来るだけチャンスを与えることを心がけ、彼らの挑戦を見守りました。これは委員会にとっては大きなリスクですが、例えそれが失敗に終わったとしてもそれは大きな成長へ結びつきます。

私は富桜祭実行委員会での活動という小さな視点にとらわれず、その人の人生の一つの通過点としてここで多く学んで大きくなつてほしいと願いました。

私は自身多く学び成長し、この大学生活を大変有意義な時間にすることが出来ました。

しかし、その全ては私を応援してくださいましたかたがたの協力なくしてはとても実現は出来なかつたと確信しています。共に頑張ってくれた仲間達、委員会長佐藤三武朗先生の挨拶、横山雅人同窓会副会長による乾杯の後、懇談に移りました。

当日は、来賓の先生方にキャンパスライフや授業についての懐かしい思い出話をして頂くとともに、参加した同窓生の近況報告など、始終和やかな雰囲気で会は進行し、会員同士が久々の再会を分かち合い、互いの近況を報告しあっている光景が至るところで見られました。

(文責 木内)

国際関係学部同窓会

桜栄会

平成十四年十一月二日、第十

九回国際関係学部同窓会総会・

懇親会が静岡県三島市にある三島グランドホテルにて開催されました。平成十一年の総会から

三島と東京で交互に開催することになって以来、二度目の三島会場となりましたが、約五十名

の卒業生や来賓の先生方が集い、和やかな会となりました。

総会では、会長挨拶の後、会務報告、会計報告が行われ、校友会の発足に関する説明と同窓会名簿の発行について審議されました。

また、写真撮影に続いて行われた親睦会では、国際関係学部長佐藤三武朗先生の挨拶、横山雅人同窓会副会長による乾杯の後、懇談に移りました。

当日は、来賓の先生方にキャンバスライフや授業についての懐かしい思い出話をして頂くとともに、参加した同窓生の近況

報告など、始終和やかな雰囲気で会は進行し、会員同士が久々の再会を分かち合い、互いの近況を報告しあっている光景が至るところで見られました。

(文責 大塚)



国際関係学部同窓会



桜栄会

平成 14 年度 事 業 報 告

1 国際関係学部校友会会長賞授与

平成14年度日本大学国際関係学部在学生から、次の者が国際関係学部長から推薦された。

・校友会会长賞（副賞：記念品）は、国際関係学部4名に贈られ平成15年3月25日の卒業式当日、帝国ホテルにおいて授与式が行われた。

・校友会会长賞（副賞：奨学金）は、国際関係学部4名に贈られ4月4日開講式当日授与式が行われた。

①校友会会长賞（副賞：記念品）

杉野美紀（国際関係学科4年） 斎藤久美絵（国際文化学科4年）

川村友江（国際交流学科4年） 猪狩博織（国際ビジネス情報学科4年）

②校友会会长賞（副賞：奨学金）

鹿内隼人（国際文化学科3年） 斎藤慎亮（国際ビジネス情報学科3年）

山本克幸（国際ビジネス情報学科3年） 楠本幸貴（国際ビジネス情報学科3年）

1 学園歌集発行

2,000部を平成14年4月国際関係学部・短期大学部（三島）各学科の新入生全員に対して入学祝として渡した。

1 会報発行

会報33号を平成14年11月3日付け12頁3,000部を発行した。

1 各科同窓会等補助

国際関係学部同窓会・桜栄会並びに大学の体育会及び箱根駅伝応援に補助した。

1 常任幹事会

平成14年7月12日（金）17時30分から、国際関係学部8号館2階において開催した。

1 幹事会

平成14年7月12日（金）18時30分から、国際関係学部8号館2階において開催した。

1 総会並びに懇親会

平成14年11月3日（日）16時から、国際関係学部記念館において開催した。

1 箱根駅伝応援

平成15年1月2日（木）往路ゴール応援地点及び平成15年1月3日（金）復路スタート応援地点で応援した。また、国際関係学部体育会ダンス部が箱根で応援に花を添えた。

平成 14 年度 収 支 決 算 書

（平成 14 年 4 月 1 日～平成 15 年 3 月 31 日）

（単位：円）

| 支 出 の 部 | | | | 収 入 の 部 | | | |
|-------------------|-------------|-----------|-------------|-------------|-----------|-----------|-----------|
| 項 目 | 予 算 額 | 決 算 額 | 差 額 | 項 目 | 予 算 額 | 決 算 額 | 差 額 |
| 獎 学 費 | 830,000 | 716,380 | 113,620 | 会 費 収 入 | 3,924,000 | 3,924,000 | 0 |
| 学 園 歌 集 発 行 費 | 210,000 | 207,000 | 3,000 | 雜 収 入 | 84,032 | 290,314 | △ 206,282 |
| 校 友 会 報 発 行 費 | 190,000 | 200,025 | △ 10,025 | 前 受 金 収 入 | 1,056,000 | 0 | 1,056,000 |
| 各 科 同 窓 会 等 補 助 | 200,000 | 60,000 | 140,000 | | | | |
| 學 生 团 体 補 助 | 400,000 | 200,000 | 200,000 | | | | |
| 總 會 並 び に 懇 親 会 費 | 700,000 | 553,765 | 146,235 | | | | |
| 會 議 會 合 費 | 200,000 | 128,534 | 71,466 | | | | |
| 通 信 費 | 100,000 | 97,140 | 2,860 | | | | |
| 事 務 費 | 350,000 | 132,327 | 217,673 | | | | |
| 雜 費 | 200,000 | 301,750 | △ 101,750 | | | | |
| 本 部 校 友 会 会 費 | 470,000 | 470,000 | 0 | | | | |
| 予 計 | 500,000 | 0 | 500,000 | | | | |
| | 4,350,000 | 3,066,921 | 1,283,079 | 計 | 5,064,032 | 4,214,314 | 849,718 |
| 基 金 繼 入 額 | 0 | 1,000,000 | △ 1,000,000 | 基 金 繼 出 額 | 470,000 | 0 | 470,000 |
| 次 年 度 繼 越 金 | 1,220,000 | 168,361 | 1,051,639 | 前 年 度 繼 越 金 | 35,968 | 20,968 | 15,000 |
| (前 受 金) | (1,056,000) | (0) | (1,056,000) | | | | |
| (繰 越 金) | (164,000) | (168,361) | (△ 4,361) | | | | |
| 支 出 の 部 合 計 | 5,570,000 | 4,235,282 | 1,334,718 | 収 入 の 部 合 計 | 5,570,000 | 4,235,282 | 1,334,718 |

貸 借 対 照 表

（平成 15 年 3 月 31 日現在）

（単位：円）

| 借 方 | | 貸 方 | |
|-----------|------------|-------------|----------------|
| 項 目 | 金 額 | 項 目 | 金 額 |
| 普 通 期 預 金 | 32,268,361 | 基 金 | 32,100,000 |
| 定 期 預 金 | 0 | 前 年 度 繼 越 額 | (31,100,000) |
| | | 本 年 度 繼 入 額 | (1,000,000) |
| | | 次 年 度 繼 越 額 | (168,361) |
| | | 前 累 越 金 | (0) |
| 合 計 | 32,268,361 | 後 累 越 金 | (168,361) |
| | | 計 | 32,268,361 |

基 金 の 内 訳

（単位：円）

| 項 目 | 前 年 度 繰 越 額 | 本 年 度 繰 入 額 | 合 计 |
|---------------|-------------|-------------|------------|
| 校 友 会 事 業 基 金 | 24,500,000 | 500,000 | 25,000,000 |
| 国際関係学部校友会加盟基金 | 6,600,000 | 500,000 | 7,100,000 |
| 合 計 | 31,100,000 | 1,000,000 | 32,100,000 |

平成 14 年度収支について、関係帳簿並びに証拠書類を精査いたしましたが、記帳その他正確であることを認めます。

平成 15 年 月 日

会計監査 染谷徳昭印
川昭守印

平成 15 年度 事 業 計 画(案)

1 国際関係学部校友会会長賞授与 (副賞:記念品もしくは奨学金)

日本大学国際関係学部及び短期大学部を平成16年3月卒業・4月進級の予定者を対象とする。

| | | | |
|---------------|--------|----------|-------|
| ・校友会会长賞並びに記念品 | 国際関係学部 | 4年卒業予定者 | 各学科1名 |
| | 短期大学部 | 2年卒業予定者 | 各学科1名 |
| ・校友会会长賞並びに奨学金 | 国際関係学部 | 各学科2・3年生 | 各学年1名 |
| | 短期大学部 | 各学科1年生 | 各1名 |

1 日大スポーツ02

1,400部を平成15年4月国際関係学部・短期大学部(三島)各学科の新入生全員に対して入学祝として渡す。

1 会報発行

会報34号(平成15年11月3日付)12頁3,000部。

1 各科同窓会等補助

①各科名簿編集の推進及び各科同窓会行事に対する補助。

②大学体育会・文化会に対する補助。

③箱根駅伝応援に対する補助。

1 常任幹事会

平成15年7月25日(金)17時30分から、国際関係学部8号館2階において開催する。

1 幹事会

平成15年7月25日(金)18時30分から、国際関係学部8号館2階において開催する。

1 総会並びに懇親会

平成15年11月3日(月)16時から、三島グランドホテルにおいて開催する。

1 箱根駅伝応援

平成16年1月2日(金)往路ゴール応援地点並びに平成16年1月3日(土)復路スタート応援地点で応援する。

平成 15 年度 収 支 予 算 書(案)

(平成 15 年 4 月 1 日～平成 16 年 3 月 31 日)

(単位:円)

| 支 出 の 部 | | | | 収 入 の 部 | | | |
|------------------------|------------|---------------|-----------------|-------------|-----------|-----------|-------------|
| 項 目 | 本年度予算額 | 前年度予算額 | 差 額 | 項 目 | 本年度予算額 | 前年度予算額 | 差 額 |
| 奨 学 費 | 420,000 | 830,000 | △ 410,000 | 会 費 収 入 | 6,678,000 | 3,924,000 | 2,754,000 |
| 学園歌集発行費 | 0 | 210,000 | △ 210,000 | 雑 収 入 | 2,000 | 84,032 | △ 82,032 |
| 日大スポーツ購入費 | 420,000 | 0 | 420,000 | 前 受 金 収 入 | 0 | 1,056,000 | △ 1,056,000 |
| 校友会報発行費 | 200,000 | 190,000 | 10,000 | | | | |
| 国際関係学部同窓会分配金 | 2,448,000 | 0 | 2,448,000 | | | | |
| 桜栄会分配金 | 390,000 | 0 | 390,000 | | | | |
| 各科同窓会等補助 | 200,000 | 200,000 | 0 | | | | |
| 学生団体補助 | 400,000 | 400,000 | 0 | | | | |
| 総会並びに懇親会費 | 700,000 | 700,000 | 0 | | | | |
| 会議会合費 | 200,000 | 200,000 | 0 | | | | |
| 通信運搬費 | 100,000 | 100,000 | 0 | | | | |
| 事務費 | 300,000 | 350,000 | △ 50,000 | | | | |
| 雑費 | 300,000 | 200,000 | 100,000 | | | | |
| 本部校友会会費 | 470,000 | 470,000 | 0 | | | | |
| 予備費 | 100,000 | 500,000 | △ 400,000 | | | | |
| 計 | 6,648,000 | 4,350,000 | 2,298,000 | 計 | 6,680,000 | 5,064,032 | 1,615,968 |
| 基 金 繰 入 額 | 0 | 0 | 0 | 基 金 繰 出 額 | 0 | 470,000 | △ 470,000 |
| 次 年 度 繰 越 金 (前 受 金) | 32,000 | 1,220,000 | △ 1,188,000 | 前 年 度 繰 越 金 | 0 | 35,968 | △ 35,968 |
| (繰 越 金) | (32,000) | (1,056,000) | (△ 1,056,000) | | | | |
| | (32,000) | (164,000) | (△ 132,000) | | | | |
| 支 出 の 部 合 計 | 6,680,000 | 5,570,000 | 1,110,000 | 収 入 の 部 合 計 | 6,680,000 | 5,570,000 | 1,110,000 |

平成 15 年度役員

任期 (H14.4.1 ~ H16.3.31)

| | | |
|---------------------------|--------------------|---------------------|
| 役 職 氏 名 在学年度 | 常任幹事 西野 和衛 (46・47) | 幹 事 石野 進 (23~25) |
| 顧 問 西村 満男 (21~23) | 常任幹事 江本 博勝 (46・47) | 幹 事 石垣 恭弘 (23~25) |
| 顧 問 西村美枝子 (22~24) | 常任幹事 沼上 博美 (48・49) | 幹 事 井上 忠彦 (23~25) |
| 顧 問 中嶋 信行 (23~25) | 常任幹事 大島 裕二 (52・53) | 幹 事 細田 昭次 (23~25) |
| 顧 問 奥田 吉郎 (23~25) | 常任幹事 斎藤 聰 (54~57) | 幹 事 杉山 吉房 (23~25) |
| 顧 問 瀬川 一男 (23~25) | 常任幹事 木村貴美和 (55~58) | 幹 事 服部 房夫 (23~25) |
| 顧 問 渡辺 勝一 (26・27) | 常任幹事 小松 徳弘 (56~59) | 幹 事 浅海 武夫 (23~25) |
| 顧 問 見上 勇逸 (27・28) | 常任幹事 関野 浩二 (57~61) | 幹 事 芦澤 克治 (24・25) |
| 顧 問 鈴木 邦良 (27・28) | 常任幹事 稲葉 桂子 (60・61) | 幹 事 石川 進 (25・26) |
| 顧 問 石川 貞夫 (28・29) | 常任幹事 久保 和之 (63・元) | 幹 事 矢澤 知秋 (25・26) |
| 顧 問 平井 千枝 (34・35) | 常任幹事 廣岡 達郎 (元~4) | 幹 事 長倉 祐作 (25・26) |
| | 会計監査 染谷 徳昭 (42・43) | 幹 事 宮崎 茂樹 (25・26) ○ |
| 会 長 柴田 正 (41・42) | 会計監査 宮川 守 (47・48) | 幹 事 辻 省二 (26・27) |
| 副 会 長 小椋 貞夫 (28・29) | | 幹 事 光信 儒 (26・27) |
| 副 会 長 渡辺 洋子 (35・36) | 幹 事 高田日出太郎 (21) | 幹 事 浅原 好胤 (26・27) |
| 副 会 長 高田 菊平 (36) | 幹 事 萩野新一郎 (21) | 幹 事 高橋 英明 (26・27) |
| 副 会 長 山田 浩子 (41・42) | 幹 事 馬場 康夫 (21・22) | 幹 事 荒川 通 (26・27) |
| 副 会 長 小早川隆義 (42・43) | 幹 事 清 好一 (21~23) | 幹 事 岩永 勉 (26・27) |
| 副 会 長 山崎 光義 (44・45) | 幹 事 石垣 義親 (21~23) | 幹 事 塩田 浩 (26・27) |
| 副 会 長 相田 信次 (44・45) | 幹 事 小野 真一 (21~23) | 幹 事 大井 徹也 (26・27) |
| 副 会 長 宮下 公雄 (54~57) | 幹 事 澤 直和 (21~23) | 幹 事 稲葉 昭 (26・27) |
| 幹 事 長 田中 由雄 (42・43) | 幹 事 澤 昇 (22・23) | 幹 事 熊崎 文二 (26・27) |
| 常任幹事 (庶務担当) 関野 幹雄 (48・49) | 幹 事 高橋 文吉 (22・23) | 幹 事 興水 啓一 (26・27) |
| 常任幹事 (庶務担当) 守野 敏也 (55・56) | 幹 事 堀井 佳勇 (22・23) | 幹 事 廣田 均 (26・27) |
| 常任幹事 (会計担当) 野田 正人 (62・63) | 幹 事 勝村 一男 (22・23) | 幹 事 栗原 恒夫 (26・27) |
| 常任幹事 金田 豊 (23~25) | 幹 事 笈 元 (22・23) | 幹 事 後藤 守雄 (26・27) |
| 常任幹事 白鳥 義仁 (25・26) | 幹 事 中島 知之 (22・23) | 幹 事 黒滝 祐司 (27・28) ○ |
| 常任幹事 田村 実 (26・27) | 幹 事 溝口 梅男 (22・23) | 幹 事 小林 義尚 (27・28) |
| 常任幹事 鈴木 義樹 (28・29) | 幹 事 中濱 卓弥 (22~24) | 幹 事 田村 栄一 (27・28) ○ |
| 常任幹事 角田 義廣 (30・31) | 幹 事 中塙 利雄 (22~24) | 幹 事 関本 文彦 (27・28) |
| 常任幹事 中島 敏男 (30・31) | 幹 事 北條 晃 (22~24) | 幹 事 真部 喜孝 (27・28) |
| 常任幹事 市川 紀子 (36・37) | 幹 事 長田 渉 (22~24) | 幹 事 結城 勇一 (27・28) |
| 常任幹事 久保田 勝 (38・39) | 幹 事 山内 茂 (22~24) | 幹 事 土屋 仁 (27・28) |
| 常任幹事 佐野 勝己 (39・40) | 幹 事 川口 正信 (22~24) | 幹 事 長沢 龍助 (27・28) |
| 常任幹事 土屋 忠得 (40・41) | 幹 事 小林 昭雄 (22~24) | 幹 事 佐々木凱男 (27・28) |
| 常任幹事 土屋 貞明 (42・43) | 幹 事 甲木 康夫 (22~24) | 幹 事 川崎 一成 (27・28) |
| 常任幹事 渡辺 忠昭 (42・43) | 幹 事 木村 幸夫 (23~25) | 幹 事 丸山富美男 (28) |
| 常任幹事 林田 孝二 (43) | 幹 事 小林 栄三 (23~25) | 幹 事 坂詰 正衛 (28・29) |
| 常任幹事 岩崎 一雄 (43・44) | 幹 事 勝俣 敏充 (23~25) | 幹 事 望月 知林 (28・29) |
| 常任幹事 山口 良児 (43・44) | 幹 事 森下 菊美 (23~25) | 幹 事 安東 安生 (29・30) |
| 常任幹事 鈴木 正八 (44・45) | 幹 事 播本 弘 (23~25) | 幹 事 田嶋 文義 (29・30) |
| 常任幹事 久保田博明 (45・46) | 幹 事 長谷川駿一 (23~25) | 幹 事 寺崎 哲郎 (29・30) |
| 常任幹事 榎本 瞳美 (45・46) | 幹 事 徳増 清二 (23~25) | 幹 事 関 哲男 (29・30) |

| | | | | | |
|----|-----------------|---|-----------------|---|-----------------|
| 幹 | 事 林田 達郎 (29・30) | 幹 | 事 阿部 昭子 (59・60) | 幹 | 事 平野 文星 (12・13) |
| 幹 | 事 森 伸夫 (30・31) | 幹 | 事 神田留美子 (60・61) | 幹 | 事 板垣 和江 (36・37) |
| 幹 | 事 道見 俊廣 (30・31) | 幹 | 事 松本 由恵 (62・63) | 幹 | 事 高橋 美鶴 (41・42) |
| 幹 | 事 小野 武 (30・31) | 幹 | 事 白石 忍 (63・1) | 幹 | 事 石黒栄美子 (42・43) |
| 幹 | 事 宮尾 昌介 (30・31) | 幹 | 事 渡辺 陽子 (1・2) | 幹 | 事 菊地 千尋 (43・44) |
| 幹 | 事 菅 修 (30・31) | 幹 | 事 高野 敦子 (2・3) | 幹 | 事 遠藤 晶子 (47・48) |
| 幹 | 事 馬場 妙子 (30・31) | 幹 | 事 小川 真弓 (3・4) | 幹 | 事 神戸 絹代 (47・48) |
| 幹 | 事 屋舗 公平 (30・31) | 幹 | 事 片柳 容子 (3・4) | 幹 | 事 堤 令子 (52・53) |
| 幹 | 事 堀 幸男 (30・31) | 幹 | 事 菅野 柴乃 (4・5) | 幹 | 事 中澤 小雪 (53・54) |
| 幹 | 事 根岸 元宏 (31・32) | 幹 | 事 秋山 陽子 (4・5) | 幹 | 事 斎藤 裕子 (53・54) |
| 幹 | 事 加藤 三洲 (31・32) | 幹 | 事 小林 智子 (4・5) | 幹 | 事 押見恵美子 (54・55) |
| 幹 | 事 渡部 浩司 (31・32) | 幹 | 事 片倉 希子 (5・6) | 幹 | 事 船石 圭子 (54・55) |
| 幹 | 事 大村日出雄 (32) | 幹 | 事 松本佳代子 (5・6) | 幹 | 事 中澤由利子 (56・57) |
| 幹 | 事 甲田 知由 (33) | 幹 | 事 古屋 美帆 (6・7) | 幹 | 事 佐伯絵里子 (56・57) |
| ○幹 | 事 杉本 直志 (33) | 幹 | 事 丸山さゆり (6・7) | 幹 | 事 小澤里佳子 (57・58) |
| 幹 | 事 吉野 洋一 (35) | 幹 | 事 小林 昌子 (7・8) | 幹 | 事 深津久美子 (57・58) |
| 幹 | 事 鈴木 肇 (35) | 幹 | 事 春原 昌子 (7・8) | 幹 | 事 田中 恵子 (58・59) |
| 幹 | 事 御供 政紀 (35・36) | 幹 | 事 山崎 幸恵 (8・9) | 幹 | 事 山川 敦子 (59・60) |
| 幹 | 事 小澤 文郎 (36) | 幹 | 事 渡辺 孝哉 (9・10) | 幹 | 事 武藤さゆり (59・60) |
| 幹 | 事 大西 良雄 (37) | 幹 | 事 佐野 隆子 (9・10) | 幹 | 事 塩崎 朝子 (60・61) |
| 幹 | 事 小川 武司 (37) | 幹 | 事 成島 敦子 (9・10) | 幹 | 事 稲葉 桂子 (61・62) |
| 幹 | 事 多田清太朗 (37) | 幹 | 事 園部 真子 (10・11) | 幹 | 事 小島みちよ (62・63) |
| 幹 | 事 坂口 正剛 (37) | 幹 | 事 星 美保子 (10・11) | 幹 | 事 大須賀美穂 (63・1) |
| 幹 | 事 小石川宣照 (37) | 幹 | 事 末吉 美咲 (10・11) | 幹 | 事 櫻田智栄美 (63・1) |
| 幹 | 事 谷崎 邦昭 (38) | 幹 | 事 萩野谷 肇 (41・42) | 幹 | 事 三宅理砂子 (63・1) |
| 幹 | 事 勝亦 誠 (38) | 幹 | 事 上田 定義 (41・42) | 幹 | 事 野上 香 (1・2) |
| 幹 | 事 栗山 康雄 (39) | 幹 | 事 加藤 久貴 (46・47) | 幹 | 事 羽田真理子 (2・3) |
| 幹 | 事 杉田 朋昭 (39) | 幹 | 事 秋山 稔明 (46・47) | 幹 | 事 高田香世子 (2・3) |
| 幹 | 事 両角 勇 (42) | 幹 | 事 前田 正丈 (47・48) | 幹 | 事 望月ゆりか (4・5) |
| 幹 | 事 濱田 義之 (45) | 幹 | 事 野田 栄 (47・48) | 幹 | 事 小澤 知子 (5・6) |
| 幹 | 事 高藤 省三 (49) | 幹 | 事 多田 清吾 (47・48) | 幹 | 事 原田 愛 (6・7) |
| ○幹 | 事 滝本 博 (53) | 幹 | 事 辻本真由美 (51・52) | 幹 | 事 西山 志保 (6・7) |
| 幹 | 事 岩崎 尚枝 (41・42) | 幹 | 事 浜田 順二 (53・54) | 幹 | 事 白井 里枝 (8・9) |
| 幹 | 事 小永井京子 (43・44) | 幹 | 事 吉川 浩司 (54・55) | 幹 | 事 佐藤 美幸 (10・11) |
| 幹 | 事 平岩美知子 (44・45) | 幹 | 事 藤島 昇 (55・56) | 幹 | 事 村山 景子 (11・12) |
| 幹 | 事 高橋真理子 (44・45) | 幹 | 事 遠藤 真弓 (57・58) | 幹 | 事 宮下 正俊 (39・40) |
| 幹 | 事 石井千枝子 (46・47) | 幹 | 事 後藤 幸江 (58・59) | 幹 | 事 菅沼 弘 (39・40) |
| 幹 | 事 松村 啓子 (51・52) | 幹 | 事 露木みどり (59・60) | 幹 | 事 中山 義昭 (41・42) |
| 幹 | 事 佐野 有美 (52・53) | 幹 | 事 長澤 裕子 (59・60) | 幹 | 事 渡辺 清 (42・43) |
| 幹 | 事 大塚 久子 (52・53) | 幹 | 事 中村由美子 (61・62) | 幹 | 事 赤池 哲也 (42・43) |
| 幹 | 事 宮島 満里 (53・54) | 幹 | 事 南 まり子 (3・4) | 幹 | 事 吉田 力 (44・45) |
| 幹 | 事 武田 裕美 (55・56) | 幹 | 事 岩酒 文子 (3・4) | 幹 | 事 長倉 良幸 (44・45) |
| 幹 | 事 勝亦 幾代 (56・57) | 幹 | 事 小池 恭子 (4・5) | 幹 | 事 弓場 重明 (44・45) |
| 幹 | 事 北川 早苗 (56・57) | 幹 | 事 白川 美保 (5・6) | 幹 | 事 早川 清文 (45・46) |
| 幹 | 事 山崎 瞳子 (57・58) | 幹 | 事 小柴 慶子 (6・7) | 幹 | 事 三枝 和彦 (46・47) |
| 幹 | 事 高野 直美 (58・59) | 幹 | 事 鈴木さや夏 (11・12) | 幹 | 事 勝間田多住 (47・48) |

| | | | | | |
|---|-----------------|---|-----------------|---|-----------------|
| 幹 | 事 天野 寿一 (48・49) | 幹 | 事 福田 勝弘 (56~59) | 幹 | 事 田尻 美三 (5~8) |
| 幹 | 事 瀬川 宏 (48・49) | 幹 | 事 三浦 仁 (57~60) | 幹 | 事 青木 徹 (5~8) |
| 幹 | 事 上原 豊和 (52・53) | 幹 | 事 高野 誠 (57~60) | 幹 | 事 沖倉 保宏 (6~9) |
| 幹 | 事 西家 勝彦 (52・53) | 幹 | 事 梶 敬 (57~60) | 幹 | 事 今川 慶 (6~9) |
| 幹 | 事 藤本 文彦 (52・53) | 幹 | 事 森田 克彦 (58~61) | 幹 | 事 田中 智康 (6~9) |
| 幹 | 事 垣村 光伸 (53・54) | 幹 | 事 佐上 菊仁 (58~61) | 幹 | 事 久芳 仁 (6~9) |
| 幹 | 事 児玉 豊一 (53・54) | 幹 | 事 高橋 徹 (59~62) | 幹 | 事 植松 信二 (6~9) |
| 幹 | 事 勝呂 千明 (53・54) | 幹 | 事 横溝 泰蔵 (59~62) | 幹 | 事 小林 寿成 (7~10) |
| 幹 | 事 露木ひろみ (53・54) | 幹 | 事 山田 竜作 (60~63) | 幹 | 事 望月 雅子 (7~10) |
| 幹 | 事 高須 是行 (54・55) | 幹 | 事 土田 洋二 (60~63) | 幹 | 事 斎藤美根子 (7~10) |
| 幹 | 事 鈴木啓太郎 (54・55) | 幹 | 事 桑原 健治 (60~63) | 幹 | 事 繁瀬健太郎 (7~10) |
| 幹 | 事 津田 正克 (50・51) | 幹 | 事 伊藤かおり (61~1) | 幹 | 事 大越久美子 (7~10) |
| 幹 | 事 後藤 善夫 (52・53) | 幹 | 事 増原 伸一 (61~1) | 幹 | 事 佐竹 篤 (7~10) |
| 幹 | 事 北島 薫 (52・53) | 幹 | 事 五十嵐公喜 (62~2) | 幹 | 事 高島 寛幸 (8~11) |
| 幹 | 事 加藤 喜章 (53・54) | 幹 | 事 花井 幸二 (62~2) | 幹 | 事 正木 創一 (8~11) |
| 幹 | 事 鈴木 理平 (54・55) | 幹 | 事 犬塚 重暁 (63~3) | 幹 | 事 関根 大助 (8~11) |
| 幹 | 事 内野 祥司 (55・56) | 幹 | 事 野口 厚 (63~3) | 幹 | 事 井上 善史 (8~11) |
| 幹 | 事 藤井 裕嗣 (56・57) | 幹 | 事 佐藤 淳悦 (1~4) | 幹 | 事 登ヶ谷祐人 (8~11) |
| 幹 | 事 杉山 勝行 (57・58) | 幹 | 事 高橋 博樹 (1~4) | 幹 | 事 金子 浩二 (8~11) |
| 幹 | 事 金城三十二 (58・59) | 幹 | 事 工藤 典子 (1~4) | 幹 | 事 早乙女桂子 (8~11) |
| 幹 | 事 鈴木 文量 (59・60) | 幹 | 事 長谷川哲夫 (1~4) | 幹 | 事 成田 哲浩 (9~12) |
| 幹 | 事 武井 直子 (60・61) | 幹 | 事 村上東洋男 (1~4) | 幹 | 事 八木美由紀 (9~12) |
| 幹 | 事 土佐谷泰子 (61・62) | 幹 | 事 南 敦子 (2~5) | 幹 | 事 清水 大督 (9~12) |
| 幹 | 事 峰岡 智裕 (63・1) | 幹 | 事 門脇 正朋 (2~5) | 幹 | 事 川合 貴子 (9~12) |
| 幹 | 事 田伏 正和 (元・2) | 幹 | 事 藤原 誠吾 (2~5) | 幹 | 事 井上 明子 (9~12) |
| 幹 | 事 名雪しげみ (元・2) | 幹 | 事 前田 智也 (2~5) | 幹 | 事 德田 瑞希 (9~12) |
| 幹 | 事 菅江 稔 (2・3) | 幹 | 事 坂井 利彰 (2~5) | 幹 | 事 斎藤 真規 (10~13) |
| 幹 | 事 明石知恵美 (2・3) | 幹 | 事 小田 純子 (2~5) | 幹 | 事 長岡 福也 (10~13) |
| 幹 | 事 川原 浩孝 (3・4) | 幹 | 事 田辺 裕司 (2~5) | 幹 | 事 上西 智史 (10~13) |
| 幹 | 事 藤澤 博隆 (3・4) | 幹 | 事 沼尻 正則 (3~6) | 幹 | 事 筒井 靖子 (10~13) |
| 幹 | 事 小野 和彦 (3・4) | 幹 | 事 平野 靖雄 (3~6) | 幹 | 事 杉山 祥啓 (10~13) |
| 幹 | 事 坂口 聖剛 (3・4) | 幹 | 事 若松はるか (3~6) | 幹 | 事 渡辺 梢 (10~13) |
| 幹 | 事 今川 高宏 (4・5) | 幹 | 事 三宅 大介 (3~6) | 幹 | 事 大津留真紀 (10~13) |
| 幹 | 事 町野 智彦 (5・6) | 幹 | 事 清水 健 (3~6) | 幹 | 事 長谷川郁子 (11~14) |
| 幹 | 事 古泉 典彦 (6・7) | 幹 | 事 小塙 達郎 (3~6) | 幹 | 事 松下 夏葉 (11~14) |
| 幹 | 事 池田 昌史 (8・9) | 幹 | 事 金枝 あや (3~6) | 幹 | 事 竹腰真裕子 (11~14) |
| 幹 | 事 成田 伸行 (8・9) | 幹 | 事 紅林美智子 (3~7) | 幹 | 事 後藤 暢宏 (11~14) |
| 幹 | 事 松岡 功之 (9・10) | 幹 | 事 伊藤 敦 (4~7) | 幹 | 事 竹村 直 (11~14) |
| 幹 | 事 山瀬 匠 (8・9) | 幹 | 事 佐藤 治夫 (4~7) | 幹 | 事 清水真由美 (11~14) |
| 幹 | 事 遠藤日出夫 (37) | 幹 | 事 千野 琢磨 (4~7) | 幹 | 事 小森 美雪 (11~14) |
| 幹 | 事 渡辺 博夫 (37) | 幹 | 事 明石 浩一 (5~8) | 幹 | 事 若月 朋子 (11~14) |
| 幹 | 事 江川 洋 (42) | 幹 | 事 杉山 文予 (5~8) | 幹 | 事 杉野 美紀 (11~14) |
| 幹 | 事 藤幡 俊量 (46) | 幹 | 事 江島 照美 (5~8) | 幹 | 事 斎藤久美絵 (11~14) |
| 幹 | 事 松原 裕二 (54~57) | 幹 | 事 武藤 千鶴 (5~8) | 幹 | 事 川村 友江 (11~14) |
| 幹 | 事 大沼百合子 (54~57) | 幹 | 事 鈴木 優子 (5~8) | 幹 | 事 猪狩 博織 (11~14) |
| 幹 | 事 平野 雅之 (56~59) | 幹 | 事 室伏 寛美 (5~8) | | |

第一条 本会は日本大学国際関係学部校友会と称する。

第二条 本会は事務所を日本大学国際関係学部におく。

第三条 本会は日本大学三島予科、

三島教養部、文理学部三島校舎、短期大学部三島、国際関係学部、大学院国際関係研究科の出身者および在籍した者による正会員と幹事会において本会に関係が深く功労のあると認められた特別会員・名譽会員により構成する。

第四条 本会は会員相互の親睦と融和をはかり母校の発展に寄与すると共に母校建学の理念を社会に拡充することを目的とする。

第五条 本会は前条目的達成ために左の事業を行う。

一、会員相互の親睦と融和をはかるための諸事業。
一、母校の発展興隆に関する諸事業への協力参加。
一、その他目的達成のために必要な諸事業。

第六条 本会は目的達成のため左の機関をおく。

第十一条

幹事会は年二回以上開催するものとし会長がこれを招集する。幹事会二分の一

一、総会
一、幹事会
一、常任幹事会

一、事務局

一、地方支部

項についての報告を受けこれを承認する。

第八条 総会は年一回開催するものとし会長がこれを招集する。

第九条 幹事会は総会の代行決議機関とし左の事項を付議しこれを議決する。

第十条 常任幹事会は必要に応じて随時会長がこれを招集する。

第十一条 常任幹事会は本会の執行機関として本会の実質的運営にあたる。

第十二条 常任幹事会は必要に応じて随時会長がこれを招集する。

第十三条 常任幹事会は本会の会計年度は四月一日に始まり翌年三月三十一日に終る。

第十四条 常任幹事会は本会の運営に必要な一切の事務を遂行する。

第十五条 常任幹事会は本会の運営に必要な細則は別に定めることができる。

第十六条 会員は本会を代表し会務を統理する。

第十七条 副会長は会長を補佐し、会長事故ある時はこれに代る。

第十八条 幹事長は事務を統理し、本会運営に必要な一切の事務事項を遂行する。

第十九条 常任幹事は幹事の互選により選出し、常任幹事会を構成、本会業務の執行にあたる。

第二十条 幹事は幹事会を構成し、本会運営の諸事項の議決に集しなければならない。

二、予算・決算に関する事項。

第三十一条 事務局は幹事長指示のもと会員相互の連絡及び各会議の議事の収録並びに運営査にあたる。

第三十二条 会計監査は本会会計の監査にあたる。

第三十三条 顧問・参与は幹事会の議項。

第三十四条 本会は地方に支部を設けに必要な一切の事務を行ふ。

第三十五条 本会に左の役員をおく、

第十五条 本会に左の役員をおく、

第十六条 本会は年二回以上開催するものとし会長がこれを招集する。幹事会二分の一

一、常任幹事会

学部校友会と称する。

第七条 総会は本会運営上の諸事項についての報告を受けこれを承認する。

第八条 総会は年一回開催するものとし会長がこれを招集する。

第九条 総会は年一回開催するものとし会長がこれを招集する。

第十条 総会は年一回開催するものとし会長がこれを招集する。

第十一条 総会は年一回開催するものとし会長がこれを招集する。

第十二条 総会は年一回開催するものとし会長がこれを招集する。

第十三条 総会は年一回開催するものとし会長がこれを招集する。

第十四条 総会は年一回開催するものとし会長がこれを招集する。

第十五条 総会は年一回開催するものとし会長がこれを招集する。

第十六条 総会は年一回開催するものとし会長がこれを招集する。

第十七条 総会は年一回開催するものとし会長がこれを招集する。

第十八条 総会は年一回開催するものとし会長がこれを招集する。

第十九条 総会は年一回開催するものとし会長がこれを招集する。

第二十条 総会は年一回開催するものとし会長がこれを招集する。

第二十一条 総会は年一回開催するものとし会長がこれを招集する。

第二十二条 総会は年一回開催するものとし会長がこれを招集する。

第二十三条 総会は年一回開催するものとし会長がこれを招集する。

第二十四条 総会は年一回開催するものとし会長がこれを招集する。

第二十五条 総会は年一回開催するものとし会長がこれを招集する。

第二十六条 総会は年一回開催するものとし会長がこれを招集する。

第二十七条 総会は年一回開催するものとし会長がこれを招集する。

第二十八条 総会は年一回開催するものとし会長がこれを招集する。

第二十九条 総会は年一回開催するものとし会長がこれを招集する。

以上の要求があつた場合は臨時に招集しなければならない。

会長
副会長
幹事長
常任幹事
幹事
会計監査
顧問
参与
若干名
一名
若干名
若干名
二名
二名

第三十五条 会員は終身会費として金学国際関係学部に納入すること。

第三十六条 本会の会計年度は四月一日に始まり翌年三月三十一日に終る。

第三十七条 本会の目的および事業に貢献したものは幹事会の議を経てこれを賞することができる。

第三十八条 会員で会員としての名譽を棄損する行為があつたときは幹事会の議を経て罰することができる。

第三十九条 本会の運営に必要な細則は別に定めることができる。

第四十条 本会則は昭和四十一年十一月三日からその效力を発する。

第四十一条 本会の運営に必要な細則は別に定めることができる。

第四十二条 本会の運営に必要な細則は別に定めることができる。

第四十三条 本会の運営に必要な細則は別に定めることができる。

第四十四条 本会の運営に必要な細則は別に定めることができる。

第四十五条 本会の運営に必要な細則は別に定めることができる。

第四十六条 本会の運営に必要な細則は別に定めることができる。

第四十七条 本会の運営に必要な細則は別に定めることができる。

第四十八条 本会の運営に必要な細則は別に定めることができる。

第四十九条 本会の運営に必要な細則は別に定めることができる。

第五十条 本会の運営に必要な細則は別に定めることができる。

第五十一条 本会の運営に必要な細則は別に定めることができる。

第五十二条 本会の運営に必要な細則は別に定めることができる。

第五十三条 本会の運営に必要な細則は別に定めることができる。

第五十四条 本会の運営に必要な細則は別に定めることができる。

第五十五条 本会の運営に必要な細則は別に定めることができる。

第五十六条 本会の運営に必要な細則は別に定めることができる。

第五十七条 本会の運営に必要な細則は別に定めることができる。

これに充てる。